



研修を活かした授業実践例

【小学校編】

教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。



ダンネバード！ネパール！

南国市立十市小学校 担当教科：音楽

鍋島 史

◆実践教科：総合的な学習の時間

◆時間数：4時間

◆対象学年：小学6年生

◆対象人数：82名

カリキュラム

◆実践の目的

- ・ネパールと日本の共通点・相違点に目を向け様々な角度から物事を考える力を育てる
- ・世界(日本以外)には様々な国があることを知らせる
- ・今まで知らなかった国の文化や習慣について関心を持たせる

ココがすばらしい！

- ・4限目でいきなり映像を見せなくて音からネパールの生活(くらし)を伝えるというアプローチが面白い。
- ・音を聞いて想像すると集中力が増し、いろんな想像ができるので子どもたちの興味を引き付けることができた。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ネパールってどんな国？	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なネパールクイズをする ・ネパールの位置を地図で確認する ・2枚の写真を提示して、隠された部分に何があるか想像する ・各班1枚の写真を通して、気づいたことを発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図 ・地球儀 ・写真 ・付箋
2	ネパールの生活を知らう	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の児童の感想から知りたいことなどを中心にパワーポイントを使った説明を聞き、自分たちの生活との違いを知る(あいさつ、食事、衣服、遊び、乗り物、特産物、町の様子など) ・それぞれが感じたことや疑問をワークシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・パワーポイント ・ネパールから買ってきたもの(紅茶、カレンダー、お菓子の袋、国旗、切手など) ・ワークシート
3	ネパールの学校について知らう	<ul style="list-style-type: none"> ・識字についての簡単なゲームを行う ・ネパールの識字率を知る ・なぜ、識字率が低いかを考える ・パワーポイントでネパールのいくつかの学校の様子を見て実際の様子を知る ・ワークシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・カード(ネパール語のみと日本語の意味を添えたもの) ・ペットボトル ・パワーポイント ・写真 ・ワークシート
4	ネパールの音について知らう	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の身の回りの音を想像してみる ・ネパールのビデオを見て、カトマンズの町で聞くことのできる生活の中の音について知る ・ネパールの学校の幼児クラスの授業やネパールの子どもが発表している合奏や舞踊の鑑賞をする ・日本との違いを感じる ・まとめ—今までの学習を通してネパールのよさと日本のよさについて考える ・レッサムフィリリを歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ ・CD ・マダム(楽器) ・タブラー(楽器) ・ワークシート ・レッサムフィリリの歌詞

1 時限目 | ネパールを知ろう

1. これからネパールについての学習を始めるにあたり、8月にJICAの教師海外研修でネパールに行ってきたことを告げる

2. ネパールの〇×クイズをする

★ネパールがどんな国か少しでもイメージを持たせようと思い行った。

- ①ネパールはどこにあるでしょうか？
 1 アフリカ 2 アジア 3 ヨーロッパ
- ②ネパールの人口は日本より多いでしょうか、少ないでしょうか？
 1 多い 2 少ない
- ③ネパールの面積（広さは）は次のどれでしょうか？
 1 北海道の1.8倍 2 日本と同じ 3 日本の2倍
- ④ネパールには海があるでしょうか？
 1 ない 2 ある
- ⑤ネパール語で「こんにちは」は次のどれでしょうか？
 1 ハロー 2 サワディカップ 3 ナマステ

3. 2枚の写真を見て何が隠されているか考える

★子ども達はフォトランゲージをしたことがないので、その導入として2枚の写真を提示して、何が隠されているか意見を発表するようにした。また、ここで使用した写真は私自身がネパールに行った時、最も印象に残ったことであるため、最初に子どもに伝えたかった風景を使用した。

▼なにがあるのだろう▼



▼なにをしているのだろう▼



4. 各班で写真を見て気づいたことをまとめ発表しあう

★封筒内に入っている写真について

- ・何が映っていますか？ ・何をしているのでしょうか
- ・日本と違うところ ・日本と同じところ
- ・・・という点についてまとめ発表した。



授業風景



児童の反応

- 日本はとても豊かなことが分かった。ネパールのような支えを受けて成り立っている国はいくつぐらいあるか疑問に思った。
- 日本と違うところがあった。日本は毎日停電もないし、はだしの人もあまりいない。学校があるところや車があるところは日本と一緒にあった。
- ネパールは楽しい国？とかも知りたいし、もしお金がないならそれが原因でどんなことが起きているのか、病気になったときどうするのか知りたい。
- ネパールにはいろんな祭りがあることとかは分かったけれど、結局ネパールはどのような国が分からなかった。時間がなかったから仕方がなかったけれど、ネパールのよさが分からなかったからもっとネパールのことを勉強したいと思った。

〈所感〉

フォトランゲージの授業は、児童にとって初めてだったが意欲的に取り組む姿が見えた。写真から読み取るネパールの様子は日本とはあまりに違う状態であるので、衝撃を受けた児童も少なくないことが感想から窺える。授業後の児童の感想からはすでに日本と比較している児童も何名かおり、また、もっと身近にネパールのことを捉えたいと思う意欲も感じられた。

2時限目 | ネパールの生活を知ろう

前時の児童の感想にあった、実際のネパールの人の生活はどんなものなのか知りたいという気持ちから、自分が見てきて分かる範囲で「衣」「食」「住」について説明するよう計画した。

1. 「和食とは？」—どんなものをイメージするか各自ワークシートに記入し発表させる
2. ネパールの代表的な食べ物が「ダルバート」であることを知る
3. パワーポイントを使ってその他の食べ物、衣服、乗り物など生活環境について知る
4. 紅茶やカレンダー、お菓子など実際購入してきたものについて説明をする
5. 本時の感想、疑問を記入する

児童の反応

- ネパールは日本とはくらしも文化も何もかも違うのでびっくりした。物の値段は少し安いからいいなあと考えた。水は少し汚そうなのに、なぜあんなにおいしいそうなダルバートができるか不思議だった。
- 町の名前もカトマンドゥもそうだけど、聞き慣れない言葉で新鮮だった。野菜が多くて、魚も大きなものが市場で売られたりして日本と違った。洋服屋も布を選んで仕立ててもらうなんて驚き。
- 牛肉を食べないことにびっくりした。
- ネパールのご飯はとっても食べてみたい。でも、手で食べるのでびっくりした。

- ネパールの食事は日本とは違っていただけ、きゅうりやオクラは日本と同じだった。
- ネパールはすごく貧しいかと思ったら、何でもあるし安いし、ちょっと行ってみたいなあと思った。
- ナマステでいるんな意味を持つことがわかった。
- トイレトペーパーがないのは日本人として不思議だ。右手でごはん、左手でトイレは不自然。はみがきとかはしないのだろうか？
- 私もテンプー(小型乗合三輪自動車)に乗ってみたい。

〈所感〉

この時間は、前時の児童の感想より知りたいことを中心に授業を組み立てた。パワーポイントを使っての授業は、子どもの関心と呼んだようであった。食べ物や町のバザールでの様子は新鮮であったようである。

また、同じ世代の子どもの遊ぶ様子は特に関心を引くものであったようだ。今回の児童の感想にはネパールをたいへんおもしろい国ととらえ、行ってみたいと思う児童が多い一方、前時と同じく日本とはかなり違うとの感想を持った児童も多かった。

3時限目 | ネパールの学校を知ろう

1. ネパール語で座ってくださいと書いた紙と日本語の意味を添えた紙を児童に配りそのように行動してもらおう（ネパールの識字率が53.7%であるのでそれに従いクラスの約半分の児童にネパール語の紙を配った）
2. ネパールと日本の識字率を板書し意味を教える
3. ネパール語の1(エク)、2(ドゥイ)、3(ティン)という言葉の掛け声にしてじゃんけんをし、勝ち残った3名の児童は「毒」「水」「薬」とネパール語で書かれたペットボトルを選び飲んでみる



勇気を出してみんなでそれっー

4. 実際に字が読めない不安を体験してもらい、飲んだ時の気持ちを回りの子どもに発表してもらおう
★字が読めないことについての児童の反応

- ・ どれがいい薬なのかわからない
- ・ だまされるかも…もし毒を飲んだら死ぬ
- ・ もし危ない食べ物、飲み物があっても気づかない
- ・ 生活しにくい
- ・ 変なものを飲まされそうで怖い

など不便であると感じたり不安感を持つ児童が多かった。

5. パワーポイントでネパールの学校や子どもの様子を見て、気づいたことをワークシートに記入する



児童の反応

- 子どもたちはとてもいきいきしている
- 小さい子どももいた
- みんな仲良さそう
- ナマステ〜とあいさつしている
- 写真には男の子が多い

6. 本時の感想を書く

- ・学校が少ない。
- ・学校に行くことができるだけでうれしそうだった。
- ・ネパールでは半分近くの人が字が読めない聞いてびっくりした。ものすごく不便だなと思った。
- ・日本の学校と違って木ではなくコンクリートでできている。
- ・九九が12の段まであった。
- ・学校があんなに小さいと思わなかった。夏はすごく暑いだろうなあと思った。
- ・学校に男の子が多い。先生は女の人が多い。
- ・学校に行く前に手伝いをしてえらいなあと思った。
- ・私たちが協力できることはないかなあと思った。

〈所感〉

識字率についての話をする前に簡単なゲームを行った。ネパールの識字率によると、学級の半分の児童が意味のわからないカードをもらうことになり、その割合の多さに驚いたようである。また、ネパール語の紙を貼ったペットボトルに入った飲料水を飲むゲームは、3名の児童が戸惑う姿が他の児童には印象的であったようだ。これらのアクティビティを行ってみると、なぜ字が読めないのか、またなぜ学校に行けないのかとの疑問が生まれたようで、その後のパワーポイントによる学校の説明はたいへん熱心に聞いており、中には深く考えをめぐらせる児童もあった。

4時限目 | ネパールの音を知ろう

これまでは主にパワーポイントで写真を使って授業を展開してきたが、この時間は動画を教材に用いて実際にネパールで滞在すると聞こえてくる人々の生活の中の音を体験させることにより、より臨場感を感じてもらうことを目的として授業を組み立てた。

1. 自分たちが生活するなかで聞こえる音について発表する（町、学校、家）
2. ネパールではどうだろう（ビデオ観賞）

児童の反応

- にぎやか
- クラクションの音がすごい
- みんな楽しそう
- 宗教を大切にしている
- 朝早くから活気がある
- 打楽器が多い
- 楽器がおもしろい



カトマンドゥ市内



マンガラ高等学校で



カトマンドゥの朝

3. まとめ

★ネパールの良さと日本の良さをワークシートにまとめる

—ネパールの良さ—

- ・元気で音楽がいっぱい流れている
- ・朝早く起きておまいりしている
- ・学校へ行けない人もいるけど、けんかせず仲良くしている
- ・みんなにここにこしている
- ・朝早くからみんなが集まって演奏をしていたり、楽しそう

4. ネパール国民の心の歌レッサムフィリリをみんなであうたう

児童の反応

- 字が読めないと大変だということが分かった
- 学校は小さいけれど楽しそうだなと思った
- 町はすごくにぎやかでいいなと思う
- ネパールの人は笑顔がいっぱいだったので、日本も笑顔でいられるようにしていきたい
- ネパールの暮らしと比べて私達の生活は食べ物もあり、学校に行けたり、何不自由ない生活ですごく幸せなことだが、ネパールの人もみんな目がきらきらしていてすごく幸せそうだった
- みんな仲がよさそうで、町や小学校はとても笑顔が多くて本当に楽しそうだった

〈所感〉

ビデオを使っただけの授業は、今までの写真とは違い臨場感があり、実際のネパールの生活の様子が印象的だったようである。特に、朝早くから近くの寺院にお供えものを持ち、お参りしている様子やお寺の中から聞こえてくるお経の声や、楽器を使っただけの演奏などは、日本の生活習慣にはないため目新しく映ったようである。

また、写真からは想像できないクラクションの音や町中の喧騒、どこからともなく聞こえてくる音楽もまた五感に訴えるものとなり児童の心に残ったように思われる。

成果と課題（全体を通して）

この授業を実施するまでは、日本以外の国のことを全く知らない児童が多かったが、今回の学習を通して自分たちの国とは違った国が世界にはあること、そして違う国のことを知ると自分の国とも比較することができるということに気づいた児童が増えたように思われる。また、今まで自分の生活について特に疑問も持たなかった子どもたちが、世の中に貧富の差があること、男女間に差があることなど不平等な立場に置かれた人たちが存在することを知り、自分たちの生活が恵まれたものであると同時にその中でがんばることが大切であると考える機会が持てた。

特に、自分たちと同じ小学校の子どもについては、興味や関心を持ち意欲的に授業に参加した。そんな中で、学校に行きたくても行けない子どもの存在や識字率の低さを知り、自分たちとはかなり違う境遇に置かれて生活していることに驚く児童が多く、なぜそうなのかと考える児童もいた。そして、多くの児童は、今自分たちは経済的にも制度的にも恵まれていて、その分不平不満を言わずにできることをがんばらなくてはいけないとの感想を持つことができた。限られた時間ではあるが、子どもたちはかなりネパールのいいところをたくさん見つけてこの授業を終えたように思われる。

私自身としての成果は、小学校での総合的な学習に関わらせていただくことができ、教材を自分で考え、展開の方法を考えるなかで対象である児童の実態を踏まえ、授業の計画をしたことはたいへんよい経験となった。特に、フォトランゲージや児童参加型の授業形態について学ぶことができた。

課題としては、4時間計画の授業では児童が疑問に思ったことを調べるなど、子どもの主体的な活動を取り入れることができなかったことである。そして、授業後の児童の感想からも今回の授業を活かし、次は自分たちがどうすればよいかまでを追求させるだけの十分な時間がなかった。

最も強く感じたことは、私が経験したことを子どもに伝えるということは、授業者である私自身の捉え方が即児童に反映されるということである。良くも悪くも非常に責任のある大切な役割であることを痛感した。

参考資料

【書籍】

- ・池田香代子著（2008）「世界がもし100人の村だったら 総集編」マガジンハウス
- ・清沢洋著（2008）「ネパール 村人の暮らしと国際協力」社会評論社
- ・地球の歩き方編集部編（2007）「地球の歩き方 ネパール'07～'08」ダイヤモンド・ビッグ社
- ・野津浩仁著（2007）「旅の指さし会話帳 ネパール」情報センター出版局

【ホームページ】

- ・外務省、各国地域情勢、アジア：ネパール <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/index.html>
- ・Wikipedia：識字 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%AD%98%E5%AD%97>